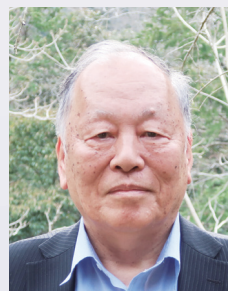


● 名誉教授 近況報告

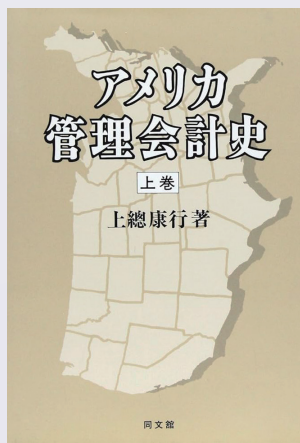
京都大学清風会 紀行文 v8



京都大学名誉教授
上總 康行

1995年4月1日、京都大学経済学部へ赴任した。前任校の名城大学在職中に『アメリカ管理会計史』上下巻、1989、同文館出版を出版して、管理会計の歴史研究に一区切りがついていた。日本企業の管理会計実務を解明するため、研究領域を広げて企業調査（聞取調査）によるケース研究に着手していたが、京都大学では、これを本格的に行うことにした。ずいぶん多くの製造企業のご理解ご協力をいただいで聞取調査を行った。

私学出身の教授というのが珍しかったのだろう。定員8名の2倍から3倍の学生がゼミに応募してきた。あるとき、PC周辺機器メーカーで有名なバッファローの牧誠社長のご子息であった牧寛之君がゼミに入ってきた。牧君を通じて聞取調査をお願いした。牧社長から快諾をいただき、ゼミ生を20名ばかり引率して名古屋市のバッファロー本社で調査をした。この調査を通じて牧社長とは大変懇意にさせていただいた。あるとき、日本における少々情けない管理会計研究の実情をお話する機会があった。牧社長から「何が足りないか」と問われたので、「お金と人が足りません」と即答し



『アメリカ管理会計史 上・下巻』
上總康行 著
(同文館)

た。そのことが契機となって、2007年3月、管理会計の研究助成に特化した財団法人メルコ学術振興財団が設立された。陣川公平副社長（オムロン）と吉田和男教授（京都大学）には理事として、中居文治名誉教授（京都大学）と川分陽二社長（フューチャーベンチャーキャピタル）には評議員として京都大学関係者にも応援していただいた。私は理事長、後任の澤邊紀生教授も理事として、財団運営に関わった。

京都大学を定年退官し、2007年4月、福井県立大学へ奉職したが、ここでも福井県の製造企業を中心にケース研究を行った。単身赴任だったので、大学と官舎を往復する毎日だったが、ほぼ週に1回、帰宅途中で喜水という和食店に通った。若狭湾で捕れる魚と日本酒が美味しかった。2012年4月、福井県立大学を退官して、公益財団法人メルコ学術振興財団の代表理事（常勤）に就任した。5年間の代表理事とその後2年間の顧問を勤めて財団運営から離れた。現在は、逝去された牧誠氏に代わって牧君（現メルコホールディングス社長）が財団の代表理事を務めている。

メルコ学術振興財団の設立にともない、不足する「お金と人」のうち、必要最低限のお金は準備できた。とはいえ、世界の研究最前線で活躍できる研究者を育てることはそう簡単ではない。財団の支援にも限界がある。大学、学会、企業、政府などがスクラムを組んで研究者育成プログラムを整備する必要があるのであるように思う。

20代だった院生たちが大きく育ちあちこちの大学で教授となった。最近では、彼らに引率されて国内外で企業調査を行っている。この先も、少しは足腰を鍛練して企業調査に出かけたいと思っ

